

秋田市保戸野の秋田工業高校の3年生が、学校で培ったものづくりの知識を生かして地域に貢献した。建築科の生徒が近隣の町内会に掲示板を、機械科の生徒が聖霊高校同市に空き缶プレス装置をそれぞれ製作して寄贈。住民や生徒から感謝の声が上がった。



## 秋田工高3年生

# ものづくりで地域貢献

生徒が自ら決めたテーマについて情報収集や製作に取り組み「課題研究」の授業の一環。今年4月以降、週1回の授業や放課後の時間を使い、相手側の要望を聞き取るなど試行錯誤を重ねながら完成させた。建築科の14人は、学校近くにある金砂神社の掲示板が老朽化して使えなくなっことを聞き、代わりとなる掲示板を製作。地元町内会員が見守る中、15日に社前に設置した。サウナは高さ約2.6m、幅約1.7m。町内会長、金子治生さん(89)らの要請を基に、神社の雰囲気になじむ深い茶色に塗った。掲示物を雨風から守るアクリル板も取り付け、材料は身近な所で入手できるものを使い、壊れても住民が修理しやすいように配慮した。

金子さんは「クマが出たしなどを、住民に掲示板で伝達できずに困っていた。未水く大切にしたい」と喜びを語った。

機械科の7人は、聖霊高のボランティア団体「聖母会」に空き缶プレス装置を台贈った。寄付金に換えるため回収したアルミ缶を、団体の生徒たちが足で直接つぶしていることを知り、少ない力で効率よく缶をつぶせたら便利で助かると考え、製作することにした。

上下に重なる鋼板の間に缶を挟み、片足で踏むとつぶれる仕組み。この原理を応用しており、秋田工業の生徒が1から設計した。かまなくても上の板を持ち上げられるよう、持ち手にひもを取り付けた。けがをしないように角の部分をやす

町内会の掲示板を製作し設置した建築科の生徒

## 近隣町内会へ掲示板製作 / 聖霊高に空き缶プレス装置



アルミ缶プレス装置を聖霊高の生徒に贈呈する筒井さん(左)

機械科の生徒7人が製作した装置



## 要望聞き取り 試行錯誤

りで削ったりと、全体の作りにも気を配った。19日に聖霊高校で贈呈式があり、聖母会の生徒に使い方を伝えた。

聖母会の部員(2年)は「ボランティア活動を支援してもらいうれし。装置を活用し、苦しんでいる人に寄付金を届けたい」と感謝していた。

掲示板とプレス装置の製作は、生徒が相手に寄り添ったものづくりを学ぶ機会にもなった。建築科の高橋

童さん(3年)は「町内会の皆さんとの意見交換を通じ、生徒もユニークな力に身に付いた。生徒同士で改善案話し合い、時にはやり直した。完成させたのができてよかった」と振り返った。

機械科の筒井聖さん(3年)は「作るまで大変だったが、聖霊高の皆さんの笑顔を見て、頑張ってたと思った」と達成感を感じさせた。

(清水美紗)